

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504047		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームいちえ(Aユニット)		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9-27		
自己評価作成日	平成31年1月25日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022.kan=true&JigyosyoCd=0170504047-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・事業所は、閑静な住宅街に立地しており、静かな生活を送る事が出来る。又、近隣には、公園もあり、散歩などの機会には近隣住民と挨拶するなど交流する事が出来る。
- ・事業所の裏には、広い裏庭があり、様々な木々や花壇の花々で自然を感じる事が出来る。又、ウッドデッキもあり、天気の良い日には、日光浴をするなど季節を感じる事が出来る。
- ・入居者とのコミュニケーションを密に図る事で、職員一人一人が情報収集に努め、業務内や毎月のカンファレンスで情報共有をする事で、その人らしい生活を送れるように努めている。
- ・様々なテーマの研修会を開催し、各職員が、知識、介護技術の向上に努めている。
- ・入居者が、安心、安全な生活を送る為「感染症・食中毒対策」に努める様、注意喚起を行い、事業所全体で徹底し対策を行っている。
- ・事業所全体で、防災への意識を高め、いざという時に備え、訓練の実施、知識の向上、情報交換する事で、入居者の生命を守る様努めている。
- ・行事係が中心となり、季節ごとに行事を開催し、職員、入居者同士が交流を図る行事を開催している。又、併設する、児童デイサービスアノアと連携する事で、交流を図り、入居者が楽しみながら参加出来る様に企画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいちえ」は、一つひとつ、ゆっくり、楽しく、「その人らしく生活していただきたい」の思いを込めてケアの提供に努め、まもなく開設14年を迎える。閑静な住宅街にありながら自然豊かな立地に隣接しており、四季折々の様子やリスなどの小動物を見たりすることができ、季節感や躍動感を感じることができる。近隣や近郊に2つの公園や児童福祉施設、教育機関、ドラッグストアやスーパーなどがあり、町内会を始めとする地域社会との関係の継続的支援の環境が整っている。職員同士、日々の申し送りやカンファレンス等で情報の共有を丁寧に実施し、利用者一人ひとりの心身の状態や思いや意向の把握につなげている。センター方式の暮らしの情報シートを更新し、どのように暮らしたいかの理解を持ち、支援のベクトルを合わせ、チームケアに活かしている。職員は、利用者に笑顔が見られることが多くなるよう、会話を上手に楽しく、ほのほのとした対応に心がけている。北海道胆振東部地震では地域の小学校へ避難し、職員が一丸となり利用者の安全と生命の維持に向けた支援に尽力した。知識や技術の向上に向けた研修や課題点を具体的な取り組みにより改善するなど、常によりよい運営体制を目指している。また、利用者の楽しみごとの充実に向け検討する意向である。地域との普段着の交流、個別の外出、通院支援や併設の児童デイサービスとの連携なども特筆する点であり、柔軟性や応用力のあるサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、各職員が確認出来る場所にケア理念を掲示している。又、実践できる様、カンファレンス等で話し合い、指摘できる関係性を作り、ケアの見直しに繋げている。	地域密着型サービスとしてのあり方を示した理念を標榜し、他に年間の事業所目標とユニット目標を掲げている。理念についてはユニット会議の中で意識づけや確認を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内からの案内で、清掃ボランティアへ希望のある入居者は参加している。他、近隣の散歩や、行事等の開催を近隣に呼び掛け交流を図れる環境作りを行っている。町内会に加入し班長等もし、回覧板のやりとりを行っている	町内会の運動会や夏祭り、清掃行事に参加したり、町内会班長の役割である神社の寄付集めや神社のお札を届けるなどを利用者と一緒にしている。併設の児童デイサービスとの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、町内会、民生委員、地域包括、消防の方々と意見交換を行っている。その中で、地域の情報や包括、事業所からの講話等を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で、事業所からの報告と取り組み内容、地域での取り組みや交流の場の提案、事業所や包括からの講話、消防からの防災への対策方法や指摘について話し合いを行っている。	会議では身体拘束適正化委員会の報告や外部評価結果、災害対策などについて話し合われ、また、事業所から発信した内容等のテーマで地域包括支援センター担当者から講話をもらっている。案内と議事録を家族へ送付している。	家族の参加が得られるよう仕組み作りを検討しているので、その取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と、不明な点がある際は相談している。生活保護担当者が入居者との面談で来訪時には、現在の状況報告行い関係性を築く様に取り組んでいる。	市の担当者とは加算の変更や書類の保管等について意見を仰いでいる。区の担当者へ介護保険の更新時や生活保護利用の利用者の介護計画の届け出などを直接出向き行っている。消防の予防課から年一回査察を受け、適切な設備等の確認を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット事務所に身体拘束禁止11項目と例外3原則を掲示し、各職員が確認出来る様にしている。身体拘束の無いケアを実践する為、定期的に研修会を開催し、身体拘束する事で起こる弊害を理解し、各職員が、日々のケアの振り返りに繋げている。又、職員間で指摘出来る関係性作りを努めている。	「虐待防止・身体拘束・緊急時対応マニュアル」「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、3か月に1度「不適切ケア防止委員会」の開催と、内部研修会を年に2回設定している。毎月のカンファレンスで職員の対応について全体で振り返りを行っている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット事務所に高齢者虐待の定義を掲示し、各職員が確認出来る様にしている。又、身体拘束と合わせ研修会を実施し、虐待に繋がらないケアの為、見直しを行い、実践している。職員間の指摘、相談も出来る様に努めている。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は施設管理者が対応しており、各職員は、深い理解を出来ていない所があり、日常生活自立支援事業と共に、各職員で学ぶ事、研修会等を開催し理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、ご家族には入居の際に、施設概要、利用料金、重度化の際の対応等説明し、グループホームで出来る事、出来ない事を説明すると共に、疑問点、要望等聞き理解を得ていただき契約に至っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会時には、意見、要望を聞く機会を作り、家族ノートに記録している。又、ユニット入り口に意見箱がる。電話連絡や、毎月の手紙で、生活の様子、受診結果等の報告をしている。	利用者から意見を出してもらえるように日々の関わりの中で話しやすい雰囲気を作っており、外出や買い物などの意向が出され支援に反映させている。個別に家族ノートを用意し、希望や意向などを書いてもらう仕組みがある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、カンファレンスに参加し、意見を聞き取る事で業務改善つなげ、必要に応じ、職員と面談する機会を設け運営に反映している。	年に1～2回、及び必要に応じて管理者が職員と個別面談を行い、話しやすい関係性を築いている。希望休制度を導入して就業環境を整備したり、企画ごとやサービス提供についても職員中心とした運営体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員と意見交換が出来る時間、環境を作る事や、日々の業務での取り組み内容等、長所を伸ばしていける職場作りに努めている。職員個々の自主性を発揮できる様に環境作りも行っている。又、各職員が入居者担当を持つことや、能力に応じた係に配属する事で向上心が持てる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や能力に応じ、法人内外の研修に参加し、事業所での実践につなげる様に努めている。新人職員には、勤務形態に合ったスケジュールを作成し、既存の職員と勤務する事で疑問や不安の解消に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、計画作成者は、会議、研修等で他事業所との交流を図っている。職員は、法人内の研修に参加した際は、他事業所との意見交換等の交流の場を設ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の際は、ご本人、ご家族と面談をし、施設内の見学や施設概要の説明を行っている。又、不安なこと、要望等聞き取りを行い安心して入居できる体制を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に、ご本人と面談行う事や、ご家族からの要望や困っている事を話す時間を設け、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人、ご家族から情報収集を行い、必要な支援の検討を行い、様々なサービスの提案を必要性に応じ説明、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションの中から、その人に合った趣味嗜好や生活習慣等を把握する事で、活動内容の検討、作成を行っている。又、入居者の普段と違う様子を観察、発見出来る様に積極的なコミュニケーションに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会で来所された際には、ご本人と落ち着いて面会できる環境作りに努めている。その際に、生活の様子等伝えている。又、毎月、各担当者からの手紙でも現在の状況伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人等が来所時には、馴染みの場所への買い物や外食に出掛ける機会がある。その際には、現在の状況、内服薬の説明行い外出している。	買い物に出かけた時に以前住んでいた地域を職員と一緒にドライブしたり、家族とは、一時帰宅や外泊、お墓参り、冠婚葬祭などで外出している。馴染みの美容室に行ったり、学生時代の同級生が訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を考慮し環境作りを行い、活動等行う際に交流を図れる様にしている。居室で過ごすことの多い入居者には定期的に様子を確認し、長時間孤立状態を作らない様に居室と一緒に過ごす時間を作り、会話や居室の整理を行っている。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、情報の提供や意見交換できる様に、いつでも連絡が取れる体制を取っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中で引き出した情報は、職員間で共有に努め、生活歴や本人の状態も含め把握する事で入居者の支援につなげている。	職員は、日々の会話の中で思いや意向を把握し、訴えが難しい方については気持ちを汲み、職員間で検討している。利用開始時に基本情報シートの記入を家族が行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談で、ご本人、ご家族から生活歴、既往歴等の聞き取りを行い、フェイスシート、アセスメントシートで把握出来る様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から入居者の状態を把握し、変化がある際は、生活記録、管理日誌に記載し、申し送り等で情報共有に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、計画作成担当者が介護計画書の更新を行っている。毎月のカンファレンスで各担当でケアプランを基にモニタリングを行い評価し、出た課題の話し合いを行っている。又、サービス内容を変更した際は家族説明している。	個人記録に介護計画の実施状況を記し、日々の申し送りや毎月1回のカンファレンスで全利用者についてモニタリングを行っている。2019年度より短期目標の設定期間等、ケアマネジメントの仕組みを見直す計画がある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記載する際に、介護計画書に添った記載をし、状態の変化、特変事項の情報共有を職員間で出来る様に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の面会、外出、外泊の時間は決められておらず、ご本人、ご家族の様々な要望に臨機応変に対応出来る様に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に合った行事を開催し、外出をする事で、地域資源の把握、活用に繋げている。又、訪問理容、訪問歯科等を利用する事で外部の方々との関わりが持たれている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新規、定期受診の関わらず、ご本人、ご家族が希望する病院を受診先の検討、決定をしている。又、体調の変化や、内服薬の相談等、かかりつけ医に相談し、助言を貰う様に努めている。	利用者、家族の希望する医療機関の受診が可能で、通院は札幌市内であれば事業所が対応している。協力医療機関による往診や訪問看護の態勢を確保している。医療内容は「受診結果」録に記している。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に健康管理記録を作成しFAXしている。入居者に変化がある際は、報告し相談している。又、月に2回看護師が訪問の際に現在の状況報告、相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院の際には、現在の状況を伝え、ご家族と病状等聞き、医療機関と情報共有をしている。又、状態の確認の為、面会を定期的に行い、早期退院が出来る体制を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化、終末期の対応を説明している。ホームでの生活が困難になった際には、ご本人、ご家族、医療機関と相談しながら出来る事を話し合っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。食事(栄養の経口摂取)が難しくなった場合は、医師の判断の下にあらためて関係者間での合意形成を図る事としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット事務所に緊急時対応マニュアルがある。又、年に1回、救命救急講習を実施し、急変時、事故の発生に備えている。その際は、質疑応答等で疑問に繋げている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度で、夜間想定、日中想定避難訓練を実施し、消防が監査に入り、防火への知識を指導してもらおう事で、意識の向上を図り、日々、防火に努めている。訓練の際には、近隣住民や地域包括に参加を呼び掛け、協力体制を築く様にしている。	年に2回、日中、夜間常想定避難訓練を実施し、消防の協力を得ている。今年度は近隣に住む職員が地域住民の代役となった。胆振東部地震では収容避難所の小学校へ利用者全員が避難し、職員が対応に当たった。現在、災害備蓄品の見直しを行っている。	地震についてのマニュアルの再構築や地震に特化した訓練や流れ等(揺れ・隠れる・利用者を集めるなど)について検討を行う予定であるので、取り組みに期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の性格等を踏まえながら、その人に合った話しかけを行っている。又、研修会で接遇を学び、各自、振り返りをする事や、職員間で指摘し合っている。	利用者への呼びかけは本人や家族の要望で利用者の反応がよい愛称の場合もある。職員は尊厳を大切に日々の介護をしている。トイレのパッド類も目につかない棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動内容を、入居者と相談して決める事や、入居者の身体状況に合った活動を行い、入居者が自己決定できる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、入居者の生活リズムを尊重し、入床、起床、入浴等の時間は決めず希望を聞き対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を決める事が出来ない入居者は、職員が用意し決めていただき更衣していただいている。又、整容の際にはヘアスタイル等本人の希望で整える事や本人でも行える様にしている。外出時におしゃれが出来る様に、ご家族と相談し、衣類を用意する様にしている。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、観察の為、職員が各テーブルと一緒につくりにしている。行事の際には、季節合った食事を自由食として提供している。又、家事に参加が可能な入居者は、出来る事を手伝ってもらえるように参加している。	管理栄養士が作成したメニューと食材が搬入され調理しているが自由食の日を設け、行事食や誕生日のリクエストメニューで提供している。外出の帰りに菓子を購入しておやつに食べたり、個別の外食も利用者の楽しみになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の様子の観察や、摂取量を、こまめに生活記録に記載し職員間で情報共有している。水分量は、水分表で確認しながら水分量確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声掛けする事で口腔ケア出来ている。不十分な所はお手伝いしながら口腔ケア行い、異常がある際は、訪問歯科にて相談し治療をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄のパターンを把握し、排泄表を活用しながら、声掛けや誘導を行っている。誘導の際の声掛けは、自尊心に配慮しながら声掛けしている。又、入居者の能力に合わせ誘導を行い、尿意、便意の低下した入居者も出来るだけトイレでの排泄が出来る様支援している。	自立排泄できる人は半数以下であるが、全員の水分排泄記録に回数と状況を記録している。経過時間で定期誘導の必要な利用者には、排泄パターンに応じた個別の対応で失敗を防いでいる。便意低下の症状で食事量低下や腹部のはりができないよう職員間で注意喚起をしてケアにあたっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防の為、乳製品、食物繊維を含む食材を提供している。便秘気味の入居者には、訪問診療で相談し下剤を内服し要望に努めている。又、活動の際には、体操などを取り入れ行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を確認しながら週に3回は入浴できるようにしている。拒否がある際には、無理に促すのではなく、時間をずらす事や、後日入浴していただいている。夏場には、シャワー浴も行っている。	毎日、午前や午後に3~4人が湯船に浸かって入浴をしている。事業所で用意してあるシャンプーやボディーソープ以外に個別に好みのものをつかう利用者もいる。浴室や利用者の洗面道具も定期除菌し清潔にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床起床の時間は、入居者個々のペースで、可能な限り時間を決めず対応している。夜間は2時間毎に安否確認を行っている。日中に眠気が出る入居者には休息を促している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報は個人ファイルに綴り、いつでも確認出来る様にしている。内服薬に変更の際は、効能、副採用等の確認し職員間で情報共有している。服用時には、必ず、職員2名で確認し誤薬、飲み忘れが無い様に対応している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の趣味嗜好を把握し、相談しながら活動内容を決め、職員と一緒にしている。又、その人が出来る事を確認しながら家事と一緒に参加していただいている。			

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を聞きながら、一緒に近隣へ散歩に出かける事がある。行事などで外出し、季節感を感じていただく事や、ご家族が本人と外食、買い物などに出掛ける機会もある。又、裏庭のウッドデッキで日光浴をする機会も作っている。	温暖な季節の散歩で真栄東公園や近隣を散策している。公園の桜や滝野すずらん公園で紅葉見物をしている。ドライブで恵庭の道の駅や江別のゆめちからテラスに行っている。職員同伴でドラッグストア、ホームセンター、スーパーで買い物をしたりウッドデッキで外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理はご家族が行っている。入居者の精神状態に合わせ、一時的に所持している事があるが使用される事は無く、ご家族と相談しながら管理行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望された際や、ご家族からの入電の際に希望があれば電話で会話できる様に対応している。入居者への郵送物は本人に渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに活動で製作した季節に合った装飾をする事で、季節が感じれる様になっている。又、心地よく過ごしていただける様に、天気、気温に合わせて換気する事や、照明の明るさの調節行っている。	児童デイサービスの様子が見える窓際に立つと子供たちが手を振ったり、楽しそうな笑い声が聞こえる。居間からウッドデッキ側に景色よい風景が見渡せ、冬季は鹿やキツネ、リスが来る様子が見える。浴室は綺麗に清掃され、除菌処理をしたうえ毎回気持ちよく入浴をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂には、入居者が心地よく過ごせる場所がある。気の合う入居者で様々な交流が図れる環境がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活歴の中で、入居者が使い慣れた物が居室にある。入居後も、その人に合わせ使いやすい物を補充し対応している。又、入居者の希望で、家族写真や置物等の装飾をご本人、ご家族と検討し置く様にしている。その際は、動線等、入居者が困らない配置にしている。	自由に暮らせるよう入居前に使っていた愛着のある品物を持ち込み、自分らしく安心して住める居室になっている。テレビ、ラジオ、仏壇、椅子、ぬいぐるみ、家族写真、時計、カレンダーを飾り、居心地のよい部屋で自分らしく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室等には表札を付け、入居者が確認出来る様にし、それぞれの居室には表札を付けわかりやすい様にしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504047		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームいちえ(Bユニット)		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9-27		
自己評価作成日	平成31年1月25日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺は、自然が豊かな環境であり、共有スペースや各居室から眺める事ができ、裏庭の雑木林からは、鳥の鳴き声や野生動物が訪るなど季節を感じることができる。近隣には公園があり、天気の良い時には気分転換に散歩へ出掛ける事が出来る。その際には、近隣の方と挨拶や会話をするなど交流を図っている。近隣のスーパー等へ買い物に行くなど外出の機会を作るよう努めており、外出が困難な入居者様は職員が買物を代行するなどして、入居者様の思いや希望に沿えるように努めている。入居者様の趣味嗜好、生活歴などを把握し、職員間で情報共有に努め、入居者1人1人が心地よく、穏やかに過ごして頂けるよう、家庭的な雰囲気の中で生活が出来る環境作りを心掛けている。季節に合わせて、行事を開催し入居者同士の交流を深めている。各入居者担当者が毎月手紙で様子、状態を伝えたり、広報誌や季刊誌を発行、フロア内に掲示し、ご家族様に生活の様子が伝わる様に努めている。ご家族様が面会に来られた時や受診の報告をする際には、その時の状態を詳しく説明をしている。定期的に事業所内外での研修会があり、出来るだけ参加する事で職員の知識、意識の向上に努めている。また、毎月、各担当でモニタリングで評価を行い、カンファレンスで報告する中で、課題を職員間で話し合い、支援に繋がっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0170504047-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念は、職員の目に入りやすい場所に掲示し共有出来るようにしており、理念を基にユニット目標を全職員で話し合い決め、実践し振り返りを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭り会やクリスマス会などの行事を行う時は、近隣の方にも案内を配布し参加を募っている。また、町内会に加入し、回覧板を回したり現在は当番で班長を行っている為近隣の方と触れ合う機会が多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の方との会話の中で、相談や疑問を受けた時には、認知症の理解を深めて頂けるよう話をするように努めている。また運営推進会議では定期的に認知症をテーマに話をする時間を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を開催し、利用者の様子や事業所の取り組みなど報告し、町内会の方など参加メンバーから助言を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護や認定更新の調査員が来訪された時には、利用者の様子や取り組みなど具体的に伝え、市町村担当者に理解をして頂き連携を深められるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項をいつでも見れるところに掲示しており、定期的に勉強会を行い、理解を深める様にしている。転倒リスクが高い方や帰宅願望が強い方にも抑えつけないように配慮し、ご家族様にも相談しながら情報共有やケア方法を検討し過ごしやすい環境を作るよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所にマニュアルが置いてあり、いつでも確認できる様になっている。定期的に勉強会を行い、理解を深めてカンファレンスなどで、ケア方法や言葉遣いなど振り返り、虐待の防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など制度を利用して知る方の対応は管理職が行い、職員への説明が不十分な為、勉強会や、説明を行いながら理解を深めていけるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や契約時に対応可能な範囲について説明しており、入居者様の状態が変化した時や制度改正時には、家族と話し合い、納得を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族様との関わりを大切にして、意見や要望が言える雰囲気作りをしている。希望される家族様には、ゆっくり話し合いが出来る時間を作り、意見・要望など確認し、職員全体で反映出来るよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスなどで、意見や悩みなど聞くようにして全職員で話し合い業務改善に努めている。また日常から自分の思いを言える環境作りを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断を実施しており健康を保つ対応をしている。疲労・ストレスを溜めないよう職員一人一人の努力などの把握に努め、また気分転換や休憩時間を確保するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた研修があり、新人・中堅研修に参加したり、外部研修にも参加出来る機会がある。また、日々の業務の中で、ケアの方法や関わり方など学べるよう取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と合同で行う研修に参加する機会があり、一緒に学んだり親睦を深めながら、色々な意見や経験をしり、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始前に、事前に本人・家族様と面会して、生活の様子や不安、思いなど、時間を掛けてお聞きし、その状況を把握し安心して頂けるための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の苦労や思いを事前にゆっくり時間をかけて面会をして話を聞き、どのような対応が出来るか話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族様の状況や思いを把握する事に努め、必要な支援が提供出来るよう他のサービスも含めた対応を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりを大切に、会話を多くして入居者様の気持ちを汲み取り、家事活動などの場面では、入居者様に教えてもらい感謝の気持ちを伝える関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙で近況報告したり、体調の変化などがあれば、電話で報告をしている。家族様の来訪時には様子を伝え家族様の思いや意見をお聞きし相談しながら、一緒に支え合える事が出来るよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会の時間に決まりは無く、家族様や友人の方が会いに来たり、時には電話で会話されている。家族様と外出や外泊も自由にされている。また以前からの掛かり付けの病院に通院したりしており、継続的な交流が出来るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、入居者様の関係性について把握し、職員は状況に合わせ、見守りや介入しながら楽しく穏やかに生活が出来るよう努めている。また、居室で過ごす事の多い方には、声掛けし会話をする機会を作っている。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、これまでの関係を大切にし、可能な限り経過を把握し、必要に応じて、詳しく情報提供するなど、継続的な関わりが出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や活動、これまでの生活歴の情報などから思いや希望を把握し、意思疎通が困難な方には、表情や生活歴から思いを汲み取り、ご家族様とも話し合いながら意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方らしい生活が継続出来るよう、家族様に生活歴や基本情報を記入してもらい把握すると共に、色々な会話の中から理解を深められるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを日々確認し、申し送りやカンファレンスで職員で情報を共有しながら全体的な把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様との会話の中から意向や思いを把握して、介護計画を作成し、毎月担当者がモニタリングを行い、カンファレンスで話し合い、最適な介護計画になるよう見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分排泄表やバイタル表、日々の様子などは生活記録に記載し、職員間で気になる点や変化がある時は、申し送りや連絡ノートを活用し情報を共有して介護計画の見直しを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様との外出や外泊は自由に行っており、その時に合わせ、予定日以外でも通院や外出をしている。また一人一人の状況に合わせた食事形態やおやつを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一緒に買い物に出掛けたり、訪問理美容を活用している。時には道の駅までドライブしたり、公園に花見にでかけるなど楽しむことが出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様が希望するかかりつけ医の受診をし、普段の生活の様子や変化を報告している。中には、家族様も一緒に同行し相談している。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理記録で状況を報告し、看護師の訪問時や訪問診療で相談や指示を受けている。体調に変化があれば、電話で相談や指示を仰いでいる。他の医療機関を受診した際には、その都度報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には普段の様子や支援の方法を詳しく伝える様にしており、入院中も可能な限り面会や医療機関・家族様と情報交換し、速やかに退院が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に詳しく事業所として出来る事・出来ない事など説明し、入居後も状態に合わせ早い段階から、本人・家族・医療機関と連携を取りながら支援出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所に対応マニュアルがあり、いつでも確認できる様になっている。救命救急の訓練や研修会を定期的な受け、急変や事故発生時に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に事業所全体で消防の指導を受けながら、避難や消火器の使用方の訓練を受けている。また9月の地震災害時の避難経験を振り返り、非常用食料や水、備品の確保を行っている。冬期間は避難経路の除雪をしっかりと行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりから、その方の性格や特徴を把握し、不快な思いにならなく、自己決定が出来るように声掛けをするよう心掛けている。また、個人情報の取り扱いや管理について注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある質問で提案し、思いや希望を聞き、自己決定出来るよう努めている。また、意思疎通が困難な方には、表情や動作、生活歴から汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その時の状況に合わせ、その方の生活リズムや思いに添える様よう、一つ一つの確認に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の散髪の時には、基本は自分でヘアスタイルを選んで頂いている。日々の整容では、その方の意向を優先しながら、見守りやさりげない支援を行っている。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はその方に合わせた味付けや形態で提供し、職員と一緒に会話をしながら味わうようにしている。また自由食では、季節の食材や入居者様の食べたい物を提供出来るよう心掛けている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合わせ、食べやすい形態で提供し、食事・水分量を把握しており、不足している時には、好みに合った物を提供し栄養や水分が確保出来るよう努めている。摂取が困難な場合は訪問診療で相談している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状況に合わせた口腔ケアを行い、不十分な所は、さりげない介助で行っている。夜間帯では義歯をお預かりして洗浄を毎日行っている。また訪問歯科では、指示やアドバイスを受け、口腔内の清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して、1人1人のリズムを把握し、それに合わせ声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄が継続して出来るよう努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や排便の有無の確認を行うと共に、起床時に牛乳を提供したり、体操など身体を動かすなど予防に努めており、便秘が見られる時には、訪問診療時相談している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を活用し、曜日や時間は入居者様の意向に合わせてよう努めており、週に2・3回は入浴されている。入浴を拒む方には、無理強いしないよう心掛け、職員で連携を取りながら対応し、個別に沿った支援を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠の妨げにならない程度で、その方に合わせた休息を取り入れており、夕方より穏やかに過ごせる環境作りに努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の日付記入では、職員が分担して行い、薬の目的や副作用など理解するよう努めている。また薬の変更がある場合は、申し送りや連絡ノートなどで情報を共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意・不得意を考え、その方に合わせ食器洗いや洗濯物たたみなどお願いしたり、活動や行事の参加を勧め、役割、楽しみごとの支援が出来るよう努めている。			

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様との外出の際に、外食や買い物で好きなおやつを購入する機会がある。天気の良い日には、裏庭のウッドデッキで日光浴などしている。他、近隣の公園等に散歩する機会を作り支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族や事業所が行っている。入居者の状態で、必要性に応じ家族様と相談し、現金を所持している方がいるが希望される事がないため使用する事は無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限はなく、家族様から電話の際や、入居者様の希望にあわせ掛けたりしている。また、自分の携帯電話を所持している入居者は家族様と連絡を取っている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごすことが出来るように、毎日の掃除や消毒を行っている。季節に合わせて、フロアの壁には、活動で装飾を作成し、入居者様と飾り、共用空間を作るよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係に配慮し、食堂の座席を決めている。居間のソファでも同様に、気の合う入居者様と一緒に過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が心地よく過ごせる様、本人・家族様と相談し、馴染みの物を置いている。また、入居者の希望で写真を飾ったりしている。居室は毎日の掃除で清潔を保ち、居心地よく過ごして頂けるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は、手すりが多く設置されており、バリアフリーで車椅子を使用されている方でも、自由に移動が出来る。入居者様の現状把握に努め、ソファ等家具の配置や照明の明るさに配慮するよう努めている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームいちえ

作成日：平成 31年 2月 25日

市町村受理日：平成 31年 2月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	2ヶ月に1回、運営推進会議は開催しているが、御家族の参加が得られなかった。	・御家族が、会議に出席出来る様取り組む。 ・御家族の意見を確認し、会議で反映させ、出席しやすい環境を作る。	行事や、避難訓練など会議前に行い、終了後会議を開催し、出席しやすい環境を作る。また、運営推進会議とは別に、「家族会」を検討し、そこで出た意見を運営推進会議で反映させる。運営推進会議で、行事や普段の様子など、プロジェクターなど使用し、参加しやすいテーマを取り入れる。	1年
2	35	地震についての訓練の実施。	・地震に特化した訓練の実施。 ・地震マニュアルの整備。	地震の特化した訓練を、年1回は実施する。また、避難訓練や運営推進会議など、消防と関わりを持つ際は、情報を頂き職員に伝達し、地震への知識等を深める。地震マニュアルの整備を行い、いざ地震が発生した場合に活用出来る様にする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。